

第 1 回館山市議会議定例会會議録

(第 6 号)

1 平成元年3月24日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 脇田 安保	2番 永井 龍平
3番 田沢 勝信	4番 庄司二三男
5番 岩村 勝弘	6番 山崎 雅己
7番 生稲 隆	8番 鈴木 勝美
9番 山口 康雄	10番 鈴木 忠夫
11番 神田 守隆	12番 榎本 春光
13番 山中金治郎	14番 小宮 利夫
15番 横溝 功	16番 石井 昌治
17番 石井 謀	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 福原 勤
21番 辻田 実	22番 黒川 平治
23番 流山源次郎	25番 渡辺 昭夫
26番 近藤 好雄	27番 林 豊
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一	助役 小倉 澄男
収入役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総務部長 渡辺 秀夫	民生部長 小幡 清之
経済部長 安西 良一	水道課長 鈴木 信一
教育委員会 杉村 芳枝	教育委員会 福原 修
選挙管理委員会 加藤 利	選挙管理委員会 佐藤 澄雄
監査委員 鈴木 重司	監査事務局 熊坂 桂一
農業委員会 斎藤 明	農業委員会 池田 六郎

1 出席事務局職員

事務局 長 川上 義雄

事務局 長 補 佐 兵藤 恭一

書 記 鈴木 哲

書 記 鈴木 修一

書 記 加藤 浩一

1 議事日程（第6号）

平成元年3月24日午前10時開議

日程第1

議案第12号 千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を
改正する規約の制定に関する協議について

議案第13号 昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員
の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例の
制定について

議案第14号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償
に関する条例の一部を改正する条例の制定につ
いて

議案第15号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関す
る条例の一部を改正する条例の制定について

議案第16号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する
条例の一部を改正する条例の制定について

議案第17号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制
定について

議案第18号 館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正
する条例の制定について

議案第19号 館山市ふるさと創生基金条例の制定について

議案第20号 館山市庁舎建設基金条例の制定について

議案第21号 館山市文化振興基金条例の制定について

議案第22号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定に
ついて

議案第23号 財産の無償譲渡について

議案第35号 昭和63年度館山市一般会計補正予算（第5号）

- 日程第2 { 議案第24号 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第25号 館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第26号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第28号 館山市土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例の制定について
- 議案第29号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第36号 昭和63年度館山市老人保健特別会計補正予算(第2号)
- 日程第3 { 議案第30号 館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定について
- 議案第31号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第34号 市道路線の変更及び認定について
- 議案第37号 昭和63年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算(第1号)
- 日程第4 { 議案第5号 平成元年度館山市一般会計予算
- 議案第6号 平成元年度館山市国民健康保険特別会計予算
- 議案第7号 平成元年度館山市老人保健特別会計予算
- 議案第8号 平成元年度館山市ユースホステル特別会計予算
- 議案第9号 平成元年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
- 議案第10号 平成元年度館山市水道事業特別会計予算
- 議案第11号 平成元年度館山市国民宿舎事業特別会計予算
- 日程第5 議案第38号 人権擁護委員候補者の推薦について
- 日程第6 議案第39号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任につ

いて

日程第7 館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

日程第8 発議案第1号 リクルート疑惑の究明と政治倫理の確立に関する意見書について

開 議 午前11時08分

◎議長（飯田義男君） 本日の出席議員数27名、これより第1回市議会定例会第6日目の会議を開きます。

議案の配付

◎議長（飯田義男君） 議案を配付いたします。

議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

継続審査について

◎議長（飯田義男君） この際、申し上げます。

文教民生委員会において審査中の議案第27号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について、建設経済委員会において審査中の議案第32号館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について、議案第33号館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について及び請願第17号大井地区の山砂採取における公害防止についての請願書について、それぞれ委員長から慎重審査の必要上、会議規則第104条の規定により、閉会中の継続審査とされたいとの申し出がありました。

お諮りいたします。議案第27号、議案第32号、議案第33号及び請願第17号をそれぞれ委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、議案第27号、議案第32号、議案第33号及び請願第17号は、いずれも閉会中の継続審査とするこ

とに決しました。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第1、議案第12号乃至議案第23号及び議案第35号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに3月13日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長小宮利夫君。御登壇願います。

（総務委員会委員長小宮利夫君登壇）

◎総務委員会委員長（小宮利夫君） ただいま議題となりました議案第12号乃至議案第23号及び議案第35号にかかわる総務委員会における審査の経過及び結果につきまして御報告申し上げます。

去る3月13日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、3月15日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主な事項について申し上げます。

まず、議案第14号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。市議会議員に関する報酬額については特別職報酬審議会に諮問したとあるが、それ以外の非常勤特別職についてはどのように決定しているのかとの質問に対し、基本的には一般職の改定率、他との均衡を勘案して総合的に決定しており、特に審議会といったものはないが、担当課と協議して決定しているとの説明がありましたが、委員より、より適正を期する意味から庁内において検討の場を設けたらどうかとの指摘がなされました。

なお、今回投票管理者、選挙立会人等について改定を行わなかった理由を伺いましたところ、国から補助の関係で基準が示されており、それに基づい

て今回は据え置いたとの説明がありました。

次に、議案第17号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてであります、「調整手当は民間における賃金、物価及び生計費を考慮し」とあるが、市において調査は行っているのかとの質問に対しまして、特に調査は行っていないが、県の人事委員会において県内の各事業所を細かに調査した結果が今回の勧告の内容であるので、それを尊重したとの説明がありました。

次に、議案第18号館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります、今回の改正で十分と考えるかとの質問に対しまして、他市の状況、市内の宿泊施設等を調査した。大幅引き上げというわけにはいかないが、その程度で何とかやれるのではないかと考えているとの説明がありましたが、さらに社会情勢等を考慮して十分な旅費を支給されるようにしていただきたい旨の要望がなされました。

次に、議案第19号館山市ふるさと創生基金条例の制定についてであります、本事業については今後も国からの補助はあるのかとの質問に対しまして、今後の補助については聞いておらず、このまま続いていくということはないのではないかと。平成元年度で事業を行い、その事業が継続するものであれば毎年予算化していくとの考えが示されました。

なお、委員より、市内にも眠った資源でまだ活用できるものがあるのではないかと、かた苦しくない市民のアイデアを生かした事業を行うべきである、また安房地域の地下水の探索を行ったらどうか等の意見が出されました。

次に、議案第20号館山市庁舎建設基金条例の制定についてであります、庁舎建設については市民のコンセンサスが得られなければならないと思うがどうかとの指摘に対しまして、平成2年度に仮称庁舎建設準備会というものを設置して、市、議会、民間の方に入っていていただいて十分検討をしていただく。そのことによって、市民へのアピールもできるのではないかと考えているとの説明がありました。

さらに、積み立てに当たっての考え方をただしましたところ、一般財源の伸長によって変わってくるが、基本的には2億円程度積み立てていきたいと

考えが示されました。

なお、建設予定地として、コミュニティセンターの西側を考えている旨説明がありました。

次に、議案第22号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、今回の税法改正に伴う影響額については、総額で平成元年度2億7,875万円と積算しているとの答弁がありました。

次に、議案第35号昭和63年度館山市一般会計補正予算（第5号）であります。歳入において合併処理浄化槽設置整備事業補助金として、国庫補助金で116万7,000円の減、県補助金で353万3,000円の増となった理由について説明を求めたところ、国庫補助金については当初30基を予定したが、28基と予定数量が減少したこと等による減額、県補助金については当初確定しなかった県の補助交付要綱が確定したことに伴う増額であるとの説明がありました。

次に、歳出、商工費中、国民宿舎事業特別会計出資金1億8,850万円について説明を求めましたところ、議会、監査委員からの指摘もあり、国民宿舎の財政体質を変えていこうということから、改築当時の起債のうち利率の高い政府資金について市が出資を行い、返済していこうとするものである。これによって、黒字基調になるものと考えられるとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要を申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました議案第12号、議案第13号、議案第15号乃至議案第23号及び議案第35号の各議案は全員一致をもって、議案第14号については賛成多数をもってそれぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

(21番議員辻田 実君登壇)

◎21番(辻田 実君) 私は、ただいま提案されておりますところの議案第12号乃至35号までの13議案中、議案第20号並びに議案第22号の2案件について反対をいたしたいと思います。

最初に、議案第20号館山市庁舎建設基金条例についての反対の御意見を申し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず第1に、現在のこの館山市の庁舎は昭和35年に建設されたものでございます。そして、予算委員会の中での質疑で、この鉄筋コンクリートの庁舎の耐用年数は65年ということが表明されております。したがって、この庁舎は設立されてから29年でございます。耐用年数の半分にも達していない庁舎を建てかえるという発想は到底理解の得られるものではないし、現在の財政事情の中からこうしたことを行うということにつきましては理解が得られないところでございます。したがって、この点については、私はこの条例を設置することにつきましては反対でございます。

第2番目の理由としては、建てかえの理由はそれでは何かという質疑の中におきまして明らかにされましたことは、駐車場が狭いということと部屋数が少ないという、こういうことであつたわけでございます。駐車場だけの問題であれば、建てかえる必要は私はないというふうに考えておるわけでございまして、特に私は商店街の方に聞きましたら、市役所の駐車場もさることながら駅前周辺の駐車場はどうしてくれるんですかと、それが先ではございませんかと、そんなことをしたらもう大変なことになりますよと、こういうことも私は何人かの人に聞いておりまして、これは駐車場が今の市役所でもってあれで足んないのかと、こういう意見まで出されまして、そういう状況の中で駅前の商店街と各所の駐車場の問題に手つけずに市役所だけは率先してやるというようなことでは、とても私は理解得られるというふうに判断しておりませんで、この点が第1。

部屋数の数につきましては、職員の数でもって平米を割り出していくと、

館山市は県内におきましては第6番目の悪いということでございますから、一番悪いわけでもございません。6番目だったら上等でございます。特に、雨が漏るとかいろんな冷暖房がきかないとか、そういう問題があるわけじゃございませんで、この2つの理由が耐用年数を36年も残して建てかえるというのは、私はちょっと理解——市民感情からいっても、現実的にいっても私は行うべきじゃないというふうに思います。

それから、3番目に移転を前提にするわけでございます。駐車場ということでございますから、駐車場だったらこの近辺に駐車場つくればいいわけでございますから、建てかえるというわけでございますから。したがって、それは移転ということでもって、先ほどの総務委員会の中におきましてはコミュニティセンターの方に持っていくと、こういうことでございますけれども、これは私は軽々に図るべきじゃないと思います。市役所が移るということは官庁街が向こうに移るということ。そこに対する都市のいろんな流通が非常に変わるわけでございます。

市民の最も多くの人からもう相当の年数をかけて合意を得られなければ、軽々に市役所を移すというようなことは館山の政治、経済にとって非常に大きな影響を及ぼすわけでございます。これらの審議会なり移転の設置、そういうようなものは決まっていらない。市としては、コミュニティセンターの近くが、西側があいていると、こういうことだけでもって、もう既成事実として決めているということは大変なことでもって、市役所とか駅というものは本当にその町の発展のかなめになるわけですから、その点の合意というものは十分積み重ねた上でもって場所の決定なりそういうものを行うべきでもって、そういうものはもう全くない。また、今の状況でもってやる必要がないというふうに判断するからでございます。

4番目には、館山の今の財政運営の中でもって2億円を積み立てていくということは非常に大変でございます。それほど余裕があるわけじゃございませんで、私は今2億円を出す財政事情じゃないというふうに思うわけでございます。そして、建設につきましては、積み立てていって10年ぐらい先にやるんだと、こういうようなことを言って——10年か何かわかりません

けど、ちょっと先ということでございますけども、よしんばこれを10年、15年先に積み立てていくということでございますれば、今の貨幣価値が10年後の貨幣価値になったらどのように変わるかということについては御案内のとおりでございます。

10年前の市の予算、市の職員の給料、国民生活の実態、10年前の2億円と今の2億円とどのぐらいの貨幣価値が違うのか、こういう点を考えていくと、今常識的に考えてうちを建てるのに10年、20年を積み立てていったうちを建てるということよりも、むしろ金を借りて後に月賦で返していくという方がとってもいいと。10年前にうち建ったから、今これをうち建てれば、当時1億円のうちはもう3億円たたなきゃ建たないよというのが今の経済の常識であるわけでございます。それを今から積んでいった10年後に建てるということになったら、そんな余裕のある状況じゃないというように思います。

したがいまして、このことにつきましては今申し上げました4点をひとつ十分吟味して、このことを考えていくなれば到底今の状況の中でもって設置条例をつくって、そして市庁舎建設という発想は出てこないと思うし、また市民との理解、また市民との話し合い、これが不十分なままに見切り発車するということは、私は市としてあるべきじゃないし、また私は議員の1人としてこれは賛成というわけにはいかない。もっと必要性が出てきた中でもって私は行ふべきだ。だから、この議案はまだ時期尚早という意味におきまして撤回をしてもらいたいということが第1点でございます。したがいまして、本案につきましては撤回をしていただきたい。したがいまして、反対をしていただきたいというふうに思うわけでございます。

それから2番目には、議案第22号でございます。館山市市税条例の一部を改正する条例でございます。この条例は消費税絡みのものでございます。全体的には、課税最低限度額の引き上げ等がございまして、ある程度の優遇措置はございます。さらには、2,000万円以上のものにつきましては大幅な減税になるわけでございます。

しかしながら、これは消費税絡みであり、そして県民税とかそういうものを別にして、税率そのものから考えてまいりますと、7段階から3段階に

累進税率を簡素化したことによりまして、具体的には 120万円から 130万円の低所得者の人、この人は 100分の 3 の税率が上がるわけです。130万円から 300万円の人は、100分の 1 の税率が逆に上がるわけです。もう 1 段階は、450万円から 900万円のランクの人が 1 % 上がるわけでございます。中堅層の人は — 最も税の恩典を組まなきゃいけない中堅層の人たちが、具体的には税率としては増額になるということでございます。

課税……だとか、控除額が全体的に減っておりますから、税そのものは減るとしても、税率そのものがこの中堅的な所得者に対しまして上がるという、このアンバランスというものは私は欠陥税制であり、このことをはい、さようでございますかということでもって賛成するということにはできない。

これは国の法律であるから、実施しなきゃならないけども、しかしながら国はそういうふうに決めたからといって、地方の住民が困るような税金を押しつけてきて、それを黙ってうのみしなきゃならないという理由はございません。そのために地方自治があるわけでございますから、市民として少しでも不合理、そして少しでも不利益になるものについては、やはり議会という名のもとにおいて市民の意思をやはり反映して、国に対しましてこの税制については市としては反対だという意味表明することは私は当然のことだろうというふうに思うわけでございます。したがいまして、この 22 号については反対でございます。

特に、条例中、92 条、94 条、96 条は、たばこ税の改正でございます。このたばこ税の改正によりまして、平成元年度の館山市の予算につきまして 3,873 万円の減収になるわけでございます、この条例によりまして。予算にはこれ減収になるわけです。館山市がなぜ減収という負担を負わなきゃならないのか。そのものをはい結構でございますと、国の決めたからということでもってこれを全部うのみにするというわけにはいかない。

したがいまして、私はこの 2 点において、この条例についてはやはり市民の立場に立って反対の意思を示すということは適切であろうということでもって、私は本案に対しまして反対をいたすものでございますので、どうか議員の皆さんにおかれましては御賛同のほどをお願い申し上げまして、私の意

見とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◎議長（飯田義男君） 辻田 実君の討論を終わります。

次、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 私は、議案の第17号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論をいたします。

本条例は、館山市職員の給与を改定しようとするものでありますが、その内容は給与の改善部分とともに改悪部分と2つの内容を持っております。改善部分は、2%の調整手当を支給しようとするものですが、これ自体は遅きに失したとはいえ、それ自身当然のことであり、賛成であります。

しかしながら、同時にこの条例は市職員の昇給を6カ月延伸するという重要な改悪部分があります。昇給延伸は、それ自身職員の給与の改悪であります。調整手当とあわせて考慮すれば、差し引きで若干のプラスになるなどという市当局のこそくな説明は到底容認できるものではありません。当然これらの労働条件の改悪については、市職員組合の同意ないしは十分な協議が尽くされていなければなりません。それらの努力が十分に尽くされているとは考えられません。

以上の点を指摘し、この議案に反対いたします。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありますか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第12号千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第13号昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第14号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第15号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第16号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第17号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第18号館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第19号館山市ふるさと創生基金条例の制定について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第20号館山市庁舎建設基金条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第21号館山市文化振興基金条例の制定について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第22号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第23号財産の無償譲渡について及び議案第35号昭和63年度館山市一般会計補正予算（第5号）について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第2、議案第24号乃至議案第26号、議案第28号、議案第29号及び議案第36号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに3月13日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長石井 謀君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長石井 謀君登壇）

◎文教民生委員会委員長（石井 謀君） ただいま議題となりました議案第24号乃至議案第26号、議案第28号、議案第29号及び議案第36号にかかわる文教民生委員会における審査の経過及び結果について御報告を申し上げます。

去る3月13日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、3月16日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主な事項について申し上げます。

まず、議案第24号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。地区公民館書記兼務手当について、今回の改正に当たって特に考慮された点は何か、また教頭が書記を兼務することについては疑問があるが、今後どのように考えていくのかとの質問に対しまして、今回提案している地区公民館書記の報酬と均衡を逸しないように従来から改定を行っており、今回も同額を提案している。教頭の書記兼務については支障がないとは言えないので、兼務を解消すべく前向きに検討中であるとの説明がありました。

次に、議案第28号館山市土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例の制定についてであります。今回の提案に当たって特に館山市だけに県の指導があったのかとの質問に対しまして、各市町村がそれぞれの地域に合ったもので提案している。今回の罰則規定についても県下ほぼ同一であるとの説明がありましたが、さらに委員より、問題になるような場所もあるように考えられるので、十分調査を行い、本条例を活用していただきたい旨の要望がありました。

次に、議案第29号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回新たに副分団長を置くことについて質問しましたところ、最近団員の就業構造の変化から分団単位での活動が多くなり、分団長の責務が重要になってきていることから、幹部団員の養成、災害時の指揮命令系統の整備という観点に立って、今回新たに副分団長を設けようとするものであるとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要を申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました議案第24号乃至議案第26号、議案第28号、議案第29号及び

議案第36号の各議案は、いずれも全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で文教民生委員会委員長の報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） ただいま議題になっております議案第24号並びに36号までの6議案中、私は議案第24号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部改正につきまして反対をいたします。

1つは、公民館の重要性とまた公民館活動をますます発展させていかなければならない状況にあります。特に、館山市は文化都市を市政の柱にしているわけですから当然でございます。そうした中にもかかわらず、小学校の教頭先生にこの公民館活動のかなめとも言える書記を兼務させなければならないということは、公民館活動の上からいっても非常に前近代的というのですか、封建的とも言われるそしりを免れない状況であるわけでございます。

したがって、こういうことを条例でもって決めていくということは、文化都市館山の私は恥になると言っても過言ではないというふうに思うのでございます。公民館活動のかなめである書記というものは地域の住民の中から民主的に選ばれ、そして適切な人がやはり地域のために活躍していくということが条件でございます。教育公務員が、そして学校の現実の教頭が2年から3年で交代していくという中、そしてその地域にほとんど密着のない人も、非常に多くの書記が今までに就任しておるし、現時点においてもその地域と

何ら関係ない、ただ学校の異動でもって教頭になった。教頭になったから書記になる。そして、文化都市館山の公民館の重要なかなめに自動的につかないという、このことを認めていくということについては、私は納得ができないわけでごさいます、これは前にもこの点については発言してまいりましたけれども、そうした面の教頭兼務というものを固定化されるということについては私は反対でごさいます。

文教委員会の中におきましては、この点につきましては一応前向きに解消の方向に努力していくと、こういうことでごさいますけれども、努力とか云々というのはもう過ぎた段階でもって、具体的に社会教育のかなめですから、これがいいものはいい、悪いものは悪いということでもって分別できないようでは、館山市の市民の文化性が問われると言っても私はいたし方ないんじゃないかというふうに思うわけでごさいますので、私はあえてこの条例に反対をするものでごさいます。

もう一つは、その報酬の年額が2万 7,000円から4万 1,000円に値上がりするということでごさいます。私は上げることは結構でごさいます。そして、この上げることについては他の市町村とのつり合いということでごさいますから、その点についてはつり合いはどのように判断したかわかりませんが、私は館山のものがある町村から比べると低い面もある。しかしながら、ある市町村から見ると高いというんですか、悪くないと。これはあながちどれをとったらいいかということについては、私は判断はつきませんけれども、この点については私は五十歩、百歩譲ったといたしましても、それならばその他の町村とのつり合い等を勘案するというのであれば、これらに関連いたしましたところの体育指導員、学校保健医、保育園の保健医、さらには、まずこうしたところの人たちも同じように他の町村から比べれば低いわけでごさいますから、こうした人たちにつきましては 1,000円のアップでごさいます。公民館だけは1万 4,000円という破格のものでごさいます。

特に、私は仕事の内容から見ても、そして実際的な状況からいきましても、体育指導員が現在3万 1,000円でごさいます。今までは公民館の書記は2万 7,000円でごさいますから、ここに 4,000円の開きがあったわけでごさい

まするけれども、体育指導員の報酬の引き上げは 1,000円でございます。これは県下でも非常に低い方でございます。なぜ体育指導員の報酬については公民館同様見直していただけなかったのか。

そして、体育指導員のメンツを重んずるわけではございませんけれども、この改正によりまして体育指導員の報酬は 1,000円のアップでございますから3万 2,000円でございます。公民館の書記と大きく逆転を見てしまったわけでございます。こういうアンバランスをそのまま私は了承するというわけにはいかない。特に、私は体育指導員、学校保健医、こういうものからいってバランスを尊重するんだったら全部にバランスを尊重して行ふべきだ。この矛盾は、単なるこうしたところの報酬の改定の出てくる部分的な矛盾ということでは私は了承されるものではないと、このように思いまして、この点についてはあえて反対をするものでございますので、その意向を十分参酌していただきたいというふうに思います。

以上でございます。

◎議長（飯田義男君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第24号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第25号館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改

正する条例の制定について、議案第26号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第28号館山市土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例の制定について、議案第29号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第36号昭和63年度館山市老人保健特別会計補正予算（第2号）について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第3、議案第30号、議案第31号、議案第34号及び議案第37号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに3月13日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長川名正二君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長川名正二君登壇）

◎建設経済委員会委員長（川名正二君） ただいま議題となりました議案第30号、議案第31号、議案第34号及び議案第37号にかかわる建設経済委員会における審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る3月13日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、3月16日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等について申し上げます。

議案第30号館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定についてであります。館山市漁港管理条例の一部改正で漁港施設占用料中、地下埋設物類の区分が細分化された理由について説明を求めましたところ、県に準じて改正を行っており、調査したところでは20センチメートルのものが多く、地代的感覚に基づいて今回細分化して均衡を図るものであるとの説明がありました。

また、道路の電柱等で交通に支障がある場合の措置について伺いましたところ、場所が不適当という場合には市が東京電力やN T T等に申し入れて移転するようにしているとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました議案第30号、議案第31号、議案第34号及び議案第37号の各議案はいずれも全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で建設経済委員会委員長報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第30号館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定について、議案第31号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第34号市道路線の変更及び認定について及び

議案第37号昭和63年度館山市国民宿舍事業特別会計補正予算（第1号）についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議長の報告

◎議長（飯田義男君） なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。

お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第4、議案第5号乃至議案第11号平成元年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

予算審査特別委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各会計予算は、ともに3月14日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長石井 謀君。御登壇願います。

（予算審査特別委員会委員長石井 謀君登壇）

◎予算審査特別委員会委員長（石井 謀君） ただいま議題となりました議案第5号乃至議案第11号平成元年度館山市一般会計予算並びに特別会計予算にかかわる予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告を申し上げます。

去る14日開会の本会議におきまして設置されました本委員会を17日招集し、各会計における予算につき慎重に審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。

第2款総務費中、一般管理費において定期健康診断手数料47万 4,000円が計上されていますが、前年度に比較して減額になっている理由について説明を求めましたところ、63年度は職員の健康診断、成人病の予防検査のほかにB型肝炎のワクチンの接種を収集センター等の関係職員に行ったものであり、新年度についてはB型肝炎の関係がなくなったことによるものであるとの説明がありました。さらに、今後においても職員の健康については十分配慮されるよう要望いたしました。

次に、企画費において館山市ふるさと創生基金繰出金 6,100万円が計上されておりますが、基金によって行う事業については市民からアイデアを募集し、助役を長とした部長以上で構成する企画審議委員会で決定していくとのことですが、事業の決定に当たっては内部での検討だけでなく、議会の意向も反映できるようにすべきではないかとの意見がありました。

次に、コミュニティ事業補助金について説明を求めましたところ、コミュニティ事業補助金交付要綱に基づき地区から要望のあったものについて補助するもので、内容としては防災備品整備事業、生活道路整備事業、コミュニティ集会施設整備事業、さらに市制施行50周年記念植樹、河川浄化運動推進事業等の補助を内定しているとの説明がありました。

次に、諸費において渚銀座警察官立寄所移設工事請負費72万 1,000円が計上されておりますが、この立寄所については地域に貢献していると評価するが、今回移設をする理由、移設先等について説明を求めましたところ、警察官立寄所については、聞くとところによると昭和49年当時に渚銀座飲食店組合が主となり寄附を募って建設、その後市に寄附をされたもので、以前にも地主の都合で移設されており、管理については館山市防犯協力会が行っている。今回も地主の都合により移設するもので、全額を市で負担する。移設先は、現在のところ中村公園ということで検討している。

なお、地主の厚意により無償で貸与を受けていたものであるもので、補償の

話は全く出ていないとの説明がありました。

次に、同じく諸費の中で、市制施行50周年記念国際民族音楽フェスティバル負担金として1,000万円が計上されていますが、全体の予算額等について説明を求めましたところ、主催は実行委員会を組織して行うもので、その実行委員会に対し市が1,000万円を支出する。そのほか、企業スポンサーより約640万円、入場収入で800万円を予定しているとの説明がありましたが、さらに今後リゾート地としてのイメージを高める意味でのこのようなフェスティバルを行うことは有効であると考えるが、果たしてこの程度の予算で十分かどうか指摘しましたところ、できるだけ企業スポンサーの協力を仰いで盛大に開催をし、でき得れば毎年続けていきたいとの考えが示されました。

次に、第3款民生費であります。社会福祉費中、民生委員推薦会委員報酬が前年対比で増額になっている理由については、新年度11月の民生委員の任期満了に伴って推薦会を3回分計上したものであるとの説明がありました。

なお、民生委員業務委託料において、民生委員の任期満了に伴い民生委員、母子福祉推進委員と合同での県外福祉施設への視察を予定しているとの説明がありました。

次に、生活保護費中、扶助費が前年対比大幅に減になっていることについて説明を求めましたところ、大きなものとしては、医療扶助費において障害基礎年金制度の導入に伴って大体この年金で賄えるということから約1,300万円の減、さらに教育扶助費において対象者の減、法外援護費においては付き添い看護料の差額を補助しているが、相談をしながら基準看護で付き添いの不必要なところへの措置を行うなどしていることによる減であるとの説明がありました。

さらに、内容等の低下はないのかとの指摘に対しまして、あくまでも厚生大臣の保護基準に基づき、その枠の中で十分話し合いをして納得をいただいている旨の説明がありました。

次に、第4款衛生費であります。環境衛生費において館山湾汚泥堆積調査委託料が計上されており、これについて本会議においても質疑がなされ、調査の内容については明らかにされておりますが、さらに本調査によって堆

積が確認された場合、除去について市単独で処理することは大変な経費が必要となるので、何らかの方法により国、県等への働きかけをすべきではないかとの意見がありました。

同じく環境衛生費中、家庭用小型合併処理浄化槽設置事業補助金 1,410万円が計上されておりますが、これについては30基を予定したもので、予定を超過した場合には補正で対応していくとの考えが示されました。

次に、不燃ごみ収集運搬業務委託については、既に本会議においても論議されたところでありますが、さらに本委員会においても質疑がなされ、関係職員の扱いについては、新年度職員1名が定年退職をし、臨時職員が4名いることから5名の減となる。臨時職員についてはやめることで了解をしており、希望があれば勤め先についてあっせんする考えであるとの説明がありました。

さらに、委託によって 1,800万円のコスト減になるとの説明がありました。その積算根拠について説明を求めましたところ、35歳以上の職員を採用したとして、およそトン当たり直営で2万 1,700円、民間で1万 5,500円、その差は 6,300円程度となる。なお、コストの90%前後は人件費であるとの説明がありました。

次に、第5款労働費であります。教養講座等講師謝礼32万円が計上されておりますが、新年度においてはコミュニティセンターに併設されている勤労青少年ホームの主催で、外国語、天文教室、料理教室、ストレッチアンドゲーム等の講座を予定しているとの説明がありました。

次に、第6款農林水産業費であります。農業振興費における地域特産物育成研究委託料50万円について説明を求めましたところ、転作等により農業経営が厳しい状況に置かれている中で、市としても農業の振興を図る見地から本市の土壌、気候に合った特産物を見つけ出し、各生産団体を指導していくということで推進協議会を設置して研究を委託する。協議会の構成員としては、農業改良普及所、暖地園芸試験場、農業士会、農協、農業団体等の知識経験者を考えているとの説明がありました。

同じく農業振興費中、農村青年グループ及び農業企画研究会に対し育成事

業補助金が計上されておりますが、それぞれの構成員、活動状況について説明を求めましたところ、農村青年グループについては、4 Hクラブ、すなわち25歳未満の農業に携わる青年十五、六名で構成し、活動内容としては今後の農業ということで改良普及所からの技術指導を受けたり、安房郡内の同様のグループとの交流等を行っている。また、農業企画研究会については4 Hクラブを終了した40歳までの青年五十五、六名で構成し、野菜、花卉、畜産の3部会の中で自分たちの今後の農業の確立について展示圃などを主に研究を行ったり、先進地の視察を行っているとの説明がありました。

次に、第7款商工費であります。商工業振興費において商工会議所物産会館建設促進研究補助金として20万円が計上されており、物産会館建設については歓迎するところであるが、促進状況はどうかとの質問に対し、従来から商工会議所に観光物産部門があり、視察等を行っている。今後におけるさらに研究を行いたいということで補助するもので、現在のところ具体的に話は進んでいないとの説明がありましたが、商業都市としての館山の歴史的な立場から、官民一体となって建設促進に努力されるよう要望いたしました。

次に、第8款土木費であります。関連して相生橋の改良について説明を求めましたところ、昭和63年度に調査設計をコンサルタントに委託しており、中間報告の中で理想的な道路の線形から幅員を7メートル50とし、かけかえが必要であるとの報告を受けている。最終的な報告はまだ来ていないが、単に相生橋の問題だけではなく、周辺の道路の改良も含めて検討しなければならないと考えているとの説明がありました。周辺の交通渋滞、また通行人に対する危険もあるので、早急に解決の方向で努力されるよう要望いたしました。

次に、第9款消防費であります。消防車購入に当たって地域によっては市の予算に上乗せをして大型車を購入することがあるように聞くが、後援会の負担の問題もあり、統一したらどうかとの意見に対し、今まで地元の要望が非常に強い場合があり、市の考えと調和をさせるため、市で予定している以上のものであればその分地元の負担を願っていたが、現在では標準

車の貸与で十分とも考えるので、今後消防団幹部と相談したいとの考えが示されました。

次に、第10款教育費であります、社会教育費において館山市主婦クラブ連絡協議会助成金17万円が計上されており、主婦クラブは17団体であるとの説明がありました。

さらに、婦人会について質問いたしましたところ、連合体は現在休止しているが、船形、那古、北条、神戸、館野において単位活動をしており、そのほかに漁協婦人部、農協婦人部といった団体があるとの説明がありました。

なお、婦人会は連合体がなくとも地域のボランティアとしての活動もあり、助成の方向で検討してもらいたいとの意見がありました。

次に、歳入であります、景気等の拡大、伸長のある中で、法人市民税滞納繰り越し分等において、前年度より徴収率が落ちているのはどういうことかとの指摘に対しまして、徴収率については前年の予算とは関係なく、過去3カ年間の徴収実績、さらに前年度の徴収状況を見ながら設定しており、多少前年度と異なるが、徴収に当たってはこれ以上の努力をするし、予算上はこの程度の数字でお願いしたいとの説明がありました。

次に、地方交付税で措置されている起債について説明を求めましたところ、元利合計で約2億7,000万円であるとの説明がありました。

次に、水道事業特別会計であります、まず消費税として徴収する額をどの程度見込んでいるか説明を求めましたところ、1,911万3,000円であるとの説明がありました。

次に、消費税関連の条例が付託委員会において継続審査となっているが、議会の決定についてどのように措置されるか考えをただしましたところ、申すまでもなく議会で今般提案した消費税関係条例が否決されれば、それに従って予算の組み替えをしなければならないが、今回は継続審査ということであり、その結果を見てその段階で修正等しなければならないと考えているとの説明がありました。

次に、国民宿舎事業特別会計であります、今回消費税分を含んだいわゆる内課税とした料金の改定案を提案していることについて説明を求めました

ところ、鳩山荘は公共企業であるので、総計予算主義をとらなければならず、従来の料飲税のような預かり金という形で歳入歳出外現金を所持することは不可能と考えるとの説明がありました。

以上が質疑応答等の概要であります。

次に討論を行い、まず一般会計について、市民の大多数が反対している消費税を含んだ予算であること、今回の税制改正によって館山市が2,700万円の影響を受けたということ、欠陥の多い消費税というものの上に立った財政計画に基づいて編成された予算であることから、認めるわけにはいかない。また、水道事業、国民宿舎事業特別会計についても、現在両事業にかかわる消費税関連の条例が付託委員会において継続審査となっていることから、結論が出る前に予算を認めるわけにはいかない。これらの理由で、一般会計予算及び水道事業、国民宿舎事業特別会計予算について反対するとともに、予算の組み替えを要求する。なお、他の特別会計予算については、生活関連という観点から賛成するとの意見がありました。

採決の結果、議案第5号一般会計予算、議案第10号水道事業特別会計予算、議案第11号国民宿舎事業特別会計予算については賛成多数をもって、議案第6号乃至議案第9号の各特別会計予算については全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、本委員会におきます審査の概要につきまして御報告を申し上げますが、市当局におかれましては今後の予算執行、行政運営に当たりまして本特別委員会における要望、指摘事項等十分に配慮されるよう要望いたします。予算審査特別委員会委員長報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で委員長の報告をわります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

(21番議員辻田 実君登壇)

◎21番(辻田 実君) ただいま議題となっております議案第5号並び11号の7つの予算案のうち、私は次の3つの予算案について反対をいたしたいと思います。

1つは、議案第5号平成元年度館山市一般会計予算、2番目に議案第10号平成元年度館山市水道事業特別会計予算、3番目に議案第11号平成元年度館山市国民宿舎事業特別会計予算の3つにつきまして反対をいたします。

この3つの予算は、御案内のように消費税絡みの法案でございます。したがって、私は反対の第1の理由といたしまして、この消費税関係の議案、特に今回館山市議会に提案されましたところの議案第27号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例、さらに議案第32号館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例、さらに議案33号館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の3法案が、それぞれの委員会におきまして満場一致をもちまして継続審議になっておるわけでございます。

したがって、継続審議になっているということは法案が成立していないわけでございますので、こうした成立していないところの条例に基づいたところの予算編成をするということにつきましては納得がまいりません。市長はこれに対しまして、議会で今般提案した消費税関係条例が否決されれば、それに従って予算の組み替えをしなければならないが、今回は継続審査中ということであるからその結果を見て対応したいと、こういうことを言っておりますけれども、これはあくまで詭弁にすぎないというふうに思います。

法律を守る人は、法律ができて初めてその法律に基づいて執行すべきだというふうに思います。市長は、これまでの論議からいって、悪法といえども法律は法律という立場から、成立した法律を遵守するという立場でございしますから、成立しない法律を持ってきてそして予算を組むということにつきましては、これはやはり私は大きな矛盾であり、納得ができないところでございます。

2番目に、消費税というのは、そもそもさきの衆議院選挙におきますとこ

ろの政府自由民主党の選挙公約であったわけでございます。いかなる形の大
型間接税も導入をしないという形でもって国民に公約して行ったものでござ
いますけれども、しかしながら現実的に選挙が終わり 300議席を得ますと
、これが国会に提案されてきたわけでございます。したがいまして、国会
の論議は大変なものでございます。そのために、竹下内閣は就任当時は48%
の支持率があったわけでございますけれども、1年足らずにこの公約を破って
消費税の導入を提案した今日では12%まで下がってしまっているわけです。
日本憲政史上の内閣の中で最も支持のない内閣でございます。まさに死に体
でございます。そういう状況の中で成立した法案でございます。

しかも、御案内のように国会の審議は不十分であり、さらには異常な形で
もって、子供に見せてもとてもじゃないけれども恥ずかしいような強行採決
という中でもって、あれでもって税金という大事な法律が成立するのかなと
いうような、もう全くひどい状況の中でもって成立した法案でございます。
したがいまして、これに対するとおころの国民の世論は大変なものでございま
して、3月に入りましてからの世論調査、特にNHK、そして朝日新聞の世
論調査を見ますと、もう内閣の支持率が減っただけじゃなくて、国会を解
散すべきだという世論調査が74%を超えておるということでございます。ま
さに、国会も内閣も国民は支持していないという数字が出ている中の今日の
情勢でございます。

こうした情勢でございますから、館山市におきましても当然でございま
す。館山市だけではございません。全国の市町村の中でもって、この法案を
めぐりまして約半数近くの自治体において見送りを決めておる。最近におき
ましては、提案された議案も横浜、さらには八日市場等におきましては否決
をされているという事態が軒並み出てきている。きょう、あしたは多くの議
会の中でもってこの議案が提案されているところについては、私が聞く範囲
においては半数以上の議会において、しかもこれが自民党の議員によって提
案されて廃案になっているというような状況があるわけでございます。

そういう状況のいわくつきであるわけでございますから、こうした点を
考えていくなれば、私ども率直にいいものはいい、悪いものは悪いという判

断に立ちまして、この消費税関連法案については私はほかの町村も同じように、また保守系の人たちもこぞってこれに参加しておりますところのこの消費税法案については、私はやはりそうしたところの判断を下すべきだというふうに思うわけでございまして、反対するわけでございます。

ここで、私はこれに関連いたしまして、市長に対してまして2つの要望、意見を申し上げたいと思うわけでございます。

1つは、悪税といえども法律は法律と、社会党のただ1人の知事である畑和埼玉県知事が、こういうことでもって消費税法案を提案をして、新聞等で報道されまして有名になっております。また、半澤市長は、できの悪い法律であっても法律は法律と、こういうことでもって言われたわけでございまして、国の法律を守らなくてはならないという立場と同時に市民に選ばれた市長であり、市民の意見を尊重しなければならないという立場でもって、私は大変な苦しみ、悩みがあると思います。これはやはりハムレットの悩み以上のものを市長は持っておられるという、その心境については私は理解もし、同情もいたします。

しかし、さきの知事選挙の結果、特に千葉県3区内におきまして、館山市の投票のその結果の比率は最も接近した市でございます。これは私も予想外に驚いております。私だけじゃないと思います。国を挙げても、日本じゅうがこの結果についてはどぎもを抜かれているわけでございまして、新聞によりますると沼田知事が当選した報告に竹下内閣を訪問したところ、竹下さんがどうも消費税におきましては迷惑をかけましたということでもって、知事に逆に陳謝をしたという報道がされているような、こういうものでございます。沼田さんは、この消費税の問題については慎重に扱ってほしいと、県民はこれに対して大きな不信と理解が得られていないと、努力してほしいという要望をしたということを言っております。この心境をやはり私は大事にしてほしい。

そして、私は口で言っているだけじゃなくて、さきの知事選の争点というのは、もう県政よりも消費税かリクルートかということでもって判断が出て、その判断に対して館山市民がこれだけの表示をしたということでございます

るから、この市民の具体的な投票に対してやはり市長は国か市民かという場合に、やはり市民の立場に立ったところの判断に私は傾いてもらいたい。二者択一でもって妥協というのはございません。賛成するか反対でございます。市民をとるか国をとるかということでございますけれども、私はここでもって市長が市民に立って判断されることを要望いたします。

2番目には、一般会計の補正予算の提案についてのことでございますけれども、私は早急に消費譲与税1億6,964万8,000円の削除を補正として提案すべきだというように思います。この見合い額につきましては、歳出の中におきまして消費税分として組み込まれているところの経費を削減すれば、そう大枠について混乱のない予算修正ができるはずでございます。

さらに、水道会計、国民宿舍会計も継続審議になったわけでございますから、やはりこの継続審議になったという議会の意思を少しでも酌み取っていただけるならば、消費税にかかわる部分を削除して私は補正を組むべきであろうと。そのことを私は早急にやっていただきたい。

そういう意味におきましては、私はここでもって市民の立場でもって、市民の態度というものが示されたわけでございますから、この予算案については撤回してもらいたいということを要望し、そして補正予算を組み替えてもらいたいと、このことをお願いする次第でございます。

以上をもちまして私の討論にさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

◎議長（飯田義男君） 辻田 実君の討論を終わります。

次、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 反対討論ばかりが続いて、通常のあれですと賛成、反対といくんでしょうけれども、賛成がないで反対ばかりで大変お気の毒であります。

私は、議案の第5号平成元年度館山市一般会計予算、それから議案の第10号平成元年度館山市水道事業特別会計予算、議案の第11号平成元年度館山市国民宿舍事業特別会計予算、この3案につきまして反対の討論をいたします。

さきの知事選挙は、革新の石井候補が破れたとはいえ、その得票を大幅に伸ばし、館山市でも得票率で40%を超える 8,551票を獲得する大躍進をいたしました。この大躍進の根本は消費税への怒りであります。高齢人口の割合が多く、所得の水準が総体的に県内でも低い当市を含む安房郡市では、消費税の被害を最も深刻に受けることから、消費税への怒りはまさに特別に強いものがあつたことをこの選挙結果が示していると思うのであります。消費税は廃止する以外にはありません。新年度当初予算案は、市長自身ができの悪い法律と言わざるを得なかつた消費税を容認するとともに、さまざまな問題があるにもかかわらずその価格転嫁を積極的に推進し、消費税の実施の先導役を市みずから担おうとしているものだと言わざるを得ません。この市長の政治姿勢は容認できません。

し尿くみ取り料金の3%引き上げは撤回し、館山市環境保全公社の経営改善のために補助金を支出するよう求めます。し尿くみ取り料金の消費税転嫁は、市民に消費税分として 700万円の負担を押しつけながら、実際にはそのうち 500万円は国庫に納められるものではなく、保全公社の経営改善のためとして、いわば横取りされるものであります。消費税法自体がこうしたことを認めていることであり、消費税がまさに欠陥税制であることを示しています。市長の言うとおりの、消費税は全くできの悪い法律であります。くみ取り料金の値上げ条例は継続審議とされ、この4月実施は不可能となりましたが、この際市長におきましてこの値上げ条例を撤回するよう改めて強く求めるものであります。

次に、国民宿舎料金、水道料金の消費税分3%転嫁による値上げ条例がやはり継続審議となり、この4月からの実施は不可能となりました。自治省は全国の自治体がこの消費税転嫁にはさまざまな問題があることから、次々と価格転嫁を見合わせている状況に対して、「転嫁をしない自治体は財源に余裕のある自治体だ。交付税配分の際、交付税の配分で考慮することになる」とか「法的に制裁の措置ができる」とか、地方自治体におどしをかけ消費税転嫁を進めさせようとしています、とんでもないことであります。地方自治の本旨が今問われていると言わなければなりません。

水道事業は、市民の生活に欠くことのできないものであります。幸い水道事業は決算も好調で、売り上げ対比7%もの高い利益率を上げており、値下げさえ可能であります。消費税転嫁による3%値上げ案を早急に市長において撤回をするよう特に強く主張し、反対討論といたします。

◎議長（飯田義男君） 神田守隆君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。

18番議員日下君敏君。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 反対、反対ばかりの討論でございますので、声なき声もあるけれども、声ある声もあるんだというところでひとつ賛成討論をいたしたいと思います。

私は、議案第5号平成元年度館山市一般会計予算について賛成討論をいたすものでございます。

館山市は、ことし——来年度には市制施行50周年を迎える記念すべき年になっておるわけでございます。きょうの机の上にも館山市のつくりましたきれいなマスコットカラーと旗ですか——フラッグですね、英語で言いますと——がありまして、なかなかいい旗だなと思ったんでありますが、昭和14年に館山北条町、那古町、船形町の3町が合併いたしまして以来50年、とにもかくにも安房の中核都市として現在に至っておるわけでございます。がしかし、その実態は半島性に基づく袋小路性と申しますか、このために長い間実は停滞を余儀なくされたというのが事実ではなからうかなというふうに思うわけでございます。ここに至りまして、その積年の念願でございます半島性の脱却ということへの実現への時間が今来ておるというふうに言ってよろしからうと思うわけでございます。皆様御案内のような総合保養地整備法、いわゆるリゾート法に基づきまして、現在館山市がリゾート諸施設の整備あるいは地域指定につきまして、積極的な活動をいたしておるということは周知の事実でございます。

このような環境の中で、市の来年度、平成元年度予算を見ますと、その

額 109億 426万、対前年度当初比 6.6%増という — 極めて積極的とは言えませんが、一応評価でき得るだけの積極的な金額で予算が組まれているというふうに評価いたしてよろしいと存ずるのであります。その政策を見てみますと、東口及び西口の駅前整備事業の推進、道路関係では国道 127 号館山バイパスの完成、さらには都市計画路線でございます八幡—高井線の完成等、次に公共下水道を見ますと三軒町の排水処理場施設の整備、さらには北条小学校を初めとした教育施設の充実、また福祉タクシー利用助成制度の新設等のある福祉政策 — これは議案よりちょっと離れますが、国保税につきましても前向きに対処しております。また、海洋性リゾートタウン計画の推進等々、一応政策を見た場合に、重要政策を見た場合に評価し得るものになっておると存ずるところでございます。

この予算を一言で申しますと、将来の発展のための基盤整備 — ハイカラな英語でいいますとインフラ整備とかと昨今は言うそうでございますが — 基盤整備を図った予算であるということで、その御努力に評価をいたすものでございます。

この本会議場でもいろいろ問題になりましたこの消費税の問題につきましては、ただ 1 点苦言を呈しておきますと、消費税の取り扱いについて十分慎重の上にも慎重にして対処していただきたい、こういうことを苦言し、要望いたしながら賛成討論にかえます。どうもありがとうございました。

◎議長（飯田義男君） 日下君敏君の討論を終わりますが、通告しない議員で他に討論はありませんか。

27番議員林 豊君。御登壇願います。

（27番議員林 豊君登壇）

◎27番（林 豊君） 私はただいま提案されております議案第5号乃至11号ですか、平成元年度の館山市一般会計予算並びに国民健康保険特別会計あるいは老人保健特別会計予算、学童共済等の特別会計予算について賛成の立場から討論を行います。

もちろんこの議案は今21番議員並びに11番議員の反対でもございましたとおり、今回の税制改正によりまして消費税の導入の上に立った予算であって、

一部欠陥はあるということは否めない事実であります。しかしながら、この方たちの御意見にもあるとおり、市民の大多数が反対をしているという発言がございましたけれども、私は必ずしもそうでないと。この税制改革というものは、現今超鋭角に上昇をしてまいりました現下の日本経済の中で、21世紀に向かって我が日本が世界の盟主として、当然永劫に発展していく過程の中で受けなければならない試練であるというふうに考えております。必ず私は日本人の英知を結集してよりよいものができ上がって、そして国民の生活を安定してくださるというふうに考えております。この間の知事選の結果がすなわち市民の世論であるというふうに断定することは、私は尚早であるというふうに考えます。

また、この館山市の平成元年度の予算であります。もうあと1週間のうちにはこの予算によって市民生活が運営をされていかなきゃならないという重大なる予算であります。これはいわば平らに言えば見積書であります。あるいは羅針盤であります。今委員長さんの報告によりますと、いろいろ考えられる点があるというふうなことから十分なる指摘であり、あるいは要望がなされたところでありますから、私は最も親愛を申し上げる市の執行部を信頼をいたしまして、その運営に当たってはその敏腕に期待を申し上げますから、どうぞ一にも二にも市民生活の向上に向かって善処をしていただきたいというふうに考えるわけであります。

半澤市長さんも大変でございますけれども、日本はあくまで法治国家であります。地方自治は3割自治とも言われています。社会党さんのおっしゃるようにひとりで歩くわけにもまいりません。今、賛成の日下議員の御意見によりますと、館山市は今50周年を迎えてこれから21世紀に向けて大館山市をつくろうとして組まれた大型の――私は大型と言っても差し支えないと思います。過去12年間の半澤さんの市政を見ますときに、このような積極的な予算を組まれたことはないと思います。そういうことから、まずこの羅針盤によって皆さん一緒にやってみようじゃありませんか。不備な点があったら御意見を申し上げて直していただこうというふうに考えて、私はこの予算に賛成をいたします。どうぞよろしくお願いします。

◎議長（飯田義男君） 林 豊君の討論を終わります。

他に討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第5号平成元年度館山市一般会計予算について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第6号平成元年度館山市国民健康保険特別会計予算、議案第7号平成元年度館山市老人保健特別会計予算、議案第8号平成元年度館山市ユースホステル特別会計予算及び議案第9号平成元年度館山市学童災害共済事業特別会計予算について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第10号平成元年度館山市水道事業特別会計予算について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可

決されました。

次いで、議案第11号平成元年度館山市国民宿舎事業特別会計予算について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(飯田義男君) 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(飯田義男君) 日程第5、議案第38号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(飯田義男君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(飯田義男君) 議案の説明を求めます。

半澤市長。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 議案第38号人権擁護委員候補者の推薦について提案理由を御説明申し上げます。

去る3月14日をもちまして任期満了となりました人権擁護委員1名につきまして、人権擁護委員法第6条第3項の規定により候補者の推薦を求められておりますので、引き続き太田博雄さんを最適任者としていたしまして御推薦申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

◎議長(飯田義男君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第6、議案第39号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（飯田義男君） 議案の朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（飯田義男君） 議案の説明を求めます。

半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 議案第39号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について提案理由を御説明申し上げます。

館山市固定資産評価審査委員会委員中、石井隆三君がこの3月31日をもって任期が満了いたしますので、引き続き同君を適任と考え選任いたしたく存じます。御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

◎議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。討論はありませんか。

— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙

◎議長（飯田義男君） 日程第7、館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙を行います。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第118条第2項の規定による指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りいたします。指名の方法は議長において指名することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。

お手元に配付の指名表のとおり、館山市選挙管理委員会委員に

加藤 利氏 二村 俊夫氏

小田 恒氏 和久 博氏

同補充員に

金子 光男氏 館石 正氏

黒川 邦保氏

豊崎 和夫氏

を指名いたします。

なお、補充員の補充の順位は、第1順位金子氏、第2順位館石氏、第3順位黒川氏、第4順位豊崎氏といたしたいと思います。

以上、指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしましたとおり、これらの方々を館山市選挙管理委員会委員、同補充員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、館山市選挙管理委員会委員に

加藤 利氏

二村 俊夫氏

小田 恒氏

和久 博氏

同補充員に

金子 光男氏

館石 正氏

黒川 邦保氏

豊崎 和夫氏

がそれぞれ当選されました。

議案の上程

◎議長(飯田義男君) 日程第8、発議案第1号リクルート疑惑の究明と政治倫理の確立に関する意見書について議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(飯田義男君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(飯田義男君) 議案の説明を求めます。

田沢勝信君。御登壇願います。

(3番議員田沢勝信君登壇)

◎3番（田沢勝信君）　ただいま朗読いただきました発議案第1号は、議会運営委員会及び議長のお許しを得、ここに5名の提出者をもってリクルート疑惑の究明と政治倫理の確立に関する意見書提出を議会に求めようとする発議であります。

以下、その提案理由の御説明を申し上げます。

御承知のとおり、我が国憲法はその前文において国民の主権を高らかに宣言しているわけではありますが、そこには「国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表が行行使し、その福利は国民がこれを享受する」とあります。

しかしながら、昨年発覚したリクルートコスモス株譲渡疑惑は、その深さと広がりにおいてとどまるところを知らずといったありさまであります。疑惑に関係した財界及び国政の最高機関でもある唯一の立法機関の国会議員、あるいは行政権の属する内閣の構成員であった国会議員、官界員に対する国民の不信と批判は日増しに強まっているところであります。あまつさえ消費税の国民負担など疑惑の手による括弧つきの福利の国民への押しつけ、これに対する国民の批判は、目をふさぎ耳を覆い隠すものでなければその批判の事実を否定することができないでございましょう。

私どもは司法、検察当局によるリクルート疑惑の徹底した究明を強く要望するとともに、今まさに必要なことは国政の中心にいた政治家がその疑惑についてみずからが国民の納得のいく解明をし、政治的、道義的責任を国民の前に明らかにし、政治倫理を固く守り、国民の政治不信を取り除き、政治への信頼を取り戻すことが議会制民主主義を守り、発展させ、国民の福利向上にとって避けて通ることのできない急務の課題と考え、ここに発議案第1号を提案する次第であります。

最後に、賢明なる先輩諸議員の皆様方の満場の賛同を賜りますようお願い申し上げます。提案理由にさせていただきます。よろしく願いいたします。

◎議長（飯田義男君）　説明は終わりました。

◎議長（飯田義男君） これより質疑を行います。御質疑ありませんか。 —
御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。討論ありませんか。 —
討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（飯田義男君） 起立少数であります。よって、本案は否決されました。

日程の追加

◎議長（飯田義男君） ただいま発議案第2号消費税の4月実施延期を求める意見書についてが提出されました。

この際、本案を日程に追加し、議題としたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 発議案第2号消費税の4月実施延期を求める意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

（議案配付）

◎議長（飯田義男君） 議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（飯田義男君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（飯田義男君） 議案の説明を求めます。

近藤好雄君。御登壇願います。

（26番議員近藤好雄君登壇）

◎26番（近藤好雄君） ただいま議題となりました発議案第2号消費税の4月実施延期を求める意見書について提案理由の御説明を申し上げます。

消費税につきましては、いろいろ問題点が指摘され広い範囲で多くの論議が交わされており、当市議会におきましても関連条例が継続審査となっておるのであります。つきましては、この際消費税の4月実施延期を関係機関に要望いたしたく、お手元に配付のとおり9名の賛成者を得て本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（飯田義男君） これより質疑を行います。御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。討論はありませんか。

11番議員神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 私は、賛成の意見を述べさせていただきます。

この消費税の4月実施延期を求める意見書であります。消費税そのものについては、非常に当市にあってはわずかばかりの年金で暮らしを立てていたり、あるいは低い所得水準で暮らしを立てている、こういう人口が総体的に特に館山市は多いわけありますから、この消費税の被害、これが一番大きく反映するというのが、千葉県の中でもこの館山を含む安房地域であろうというふうに考えます。

そういう点から、消費税というものはやはり廃止を求めるべきだと、こういうふうに考えるわけあります。残念ながら、この意見書の中ではこの点については触れていないという点は率直に言って残念な点でありますけれども、しかしこの消費税そのものが大変できの悪い法律であると、欠陥税制であると。こういうことから、この実施、導入が大きな混乱をもたらすということも日がたつにつれてますます明らかになってきている。こういう中で、消費税のその是非についてはこの中では述べてはいませんが、この実

施を当面見合わせるべきだというのは極めて現実的にも重要な意見だろうと、
こういうふうに考えます。

こうした点で、私はこの意見書は現時点の中で非常に適切な内容であろう
という点で評価をし、賛成するものであります。

以上です。

◎議長（飯田義男君） 他に討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり
可決されました。

閉 会 午後1時08分

◎議長（飯田義男君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたし
ました。

よって、これにて第1回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第5号乃至議案第39号
- 1 館山市選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙
- 1 発議案第1号
- 1 日程追加・発議案第2号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員